

# DNA鑑定新時代



■ DNA型鑑定の現在

科学警察研究所

■ 変わる裁判 注目されるDNA型鑑定

慶應義塾大学法務研究科・法学部教授・弁護士 安富 潔  
東京大学大学院教授 斎藤 成也

■ DNAの基礎知識

■ 進化するDNAビジネス

日本ジェノミクス株式会社代表取締役社長

松尾 啓介

## 歴史に残る 1面トップ事件

毎日新聞論説委員 三木 賢治

29万人のための情報発信マガジン

# 柔道

インタビュー

東海大学教授・特定非営利活動法人柔道教育ワリダリティー理事長  
人生に生かしてこそ「道」

山下 泰裕

8 AUGUST  
2007.



# 人生に生かしてこそ「道」

東海大学教授・  
特定非営利活動法人柔道教育ソリダリティー理事長

山下泰裕

色紙に書く言葉はいつも、「挑戦」。ロサンゼルスオリンピック柔道無差別級金メダルから、23年。選手としての優勝が、彼の頂点ではなかった——。引退後、アトランタオリンピック、シドニーオリンピックの日本代表監督を務め、2006年には、NPO法人による国際交流の活動を開始した。柔道は、日本の心を世界の国へ伝えることができるのだ。

「これからが『人生の金メダル』への道。まだ、道半ば」  
この言葉に、柔道家・山下泰裕氏の真の凄さがある。

## 「柔道」「友情」「平和」「 「自他共栄」の実現

柔道をしたくてもできない状況がある  
のです。

柔道の国際的な普及にご尽力され、  
その活動が高く評価されていますが、  
理事長を務められているNPO法人柔  
道教育ソリダリティーの活動について  
お話をいただけますか。

世界では、195の国や地域が国際  
柔道連盟に加盟しています。しかし、  
アフリカ、南アジア、東南アジア、オ  
セania、中東、中米、南米の中には、  
貧しい国々が、まだまだたくさんあり、  
また、この活動には、柔道を通して

数十年後には、日本に対する信頼や理解が深まり、日本文化に対する興味、関心を抱く。そんな芽を出すような、タネを撒いていく活動です。



日本の心を伝え、様々な国との文化交流に役立てたいという趣旨もあります。柔道着を着て裸足で畠の上に立つ、日本式の正座をして日本式の礼をするということは、これだけで立派な日本文化の体験になるのです。柔道着も帯を締めた着物です。欧米の人は、裸足で畠の上に上がるということには抵抗がありますし、正座の体験などはあります。礼に関しても、欧米では頭を下げるということはお詫びの意味があります。また、イスラムの国々ではアッラーの神以外には頭を下げませんね。

「礼」、「始め」、「一本」、「指導」、

しかし、柔道では、相手に対しての礼が非常に大事になります。柔道では戦う相手は敵ではありません。相手がいるから自分を磨くことができるのです。柔道で一番大事なのは、相手に対しての敬意尊敬を表す「礼」なのです。柔道で使われる言葉は、「礼」にして「柔道は、スポーツではない、私にとって哲学だ。柔道で学んだことが、今、生きている」と言っています。始めた頃は、「始め」、「引け」などの日本語は分からなかつたし、柔道の「相手の力を利用する」ということも分からなかつた。しかし、やっていくうちに、だんだんと日本語が分かるようになり、柔道の精神も分かるようになった。それにも、「始め」にしても、日本語です。

現在、中心になつて活動している国は、中国とロシアです。中国では、来年、北京オリンピックがありますが、男子柔道は強くないのです。一昨年、日中関係が一番悪い時に、中国で国際柔道連盟の会議があり、その後、中国の柔道連盟副会長から「是非、力を貸してほしい」と協力を要請されました。北京オリンピックの成功を多くの日本人が祈っているといふメッセージを送り続けることには意味があるのではないかと思、協力しています。昨年、中国男子ナショナル

「それまで」、「巴投げ」、「背負い投げ」、すべて日本語。外国人には、意味の分からぬ言葉でしょう。最初はさっぱり分かないので、やつてはいるうちに分かってきます。そして、使ってはいる日本語に興味を持つようになるのです。このように、柔道がきっかけとなつて、日本の文化に興味を持ち始めた人は、とても多いのです。一生懸命にやつてはいるうちに、心が分かってくれるのです。

代表的な例に、ロシアのブーチン大統領がいます。私は、10回以上お会いしていますが、一昨年、来日された際に一緒に食事をしました。1か月後にロシアに招待されて、ロシアでも食事をしました。ブーチン大統領も、

10年後、20年後、もしかしたら50年後に、日本に対する信頼や理解、日本文化に対する興味関心などを起こさせることができます。そこで、柔道を世界に普及し、柔道をやりたてもできない人を支援する活動。そして、その活動から、柔道を通して日本的心を世界に伝えていく活動。柔道教育ソリダリティーでは、この両方を行っています。

——各国での手ごたえはいかがですか。

現在、中心になつて活動している国

は、中国とロシアです。

中国では、来年、北京オリンピックがありますが、男子柔道は強くないのです。一昨年、日中関係が一番悪い時に、中国で国際柔道連盟の会議があり、その後、中国の柔道連盟副会長から「是非、力を貸してほしい」と協力を要請されました。北京オリンピックの成功を多くの日本人が祈っているといふメッセージを送り続けることには意味があるのではないかと思、協力しています。昨年、中国男子ナショナル

チームが、東海大学を中心とした日本で強化合宿を約5か月間行いました。今年11月には、中国の青島に「日中友好青島柔道館」ができます。外務省の「草の根無償支援協力」によって実現するものですが、青島の小学校では授業に柔道を取り入れているところもあるとのことで、柔道場開設後は、地元の子供たちが大いに利用できることを期待しています。

また、ロシアでは、北オセチア共和国のベスランが柔道が盛んな地域です。3年前に学校占拠事件があったところですが、ベスランからも子供たちを日本に招いたり、畠と柔道着を贈ったりという活動をしています。

日本国内でできる主な活動は、中学、高校で使わなくなつた柔道着をきれいに洗濯してもらい、東海大学内にある柔道教育ソリダリティー事務局に送つてもらって、それを世界の国々に贈るもので。これからは指導者も派遣していくことを考えています。指導者も、学生ボランティアであれば、夏休み、冬休みなどに活動ができますからね。

### ■ 日常生活に生かしてこそ 「道」

——「ただ強いだけでは、眞のチャンピオンではない」日本の柔道にある、世界に誇るべき精神とは。

礼に表現される相手への尊敬の他に、私が考える柔道の心とは何かというと、それは、「道」です。道とは、日常生活に生かしていくことができるもの。人生の中に生かしていくことができるから、道なのです。「ただ強いだけでは、眞のチャンピオンではない」ということは、そういうことです。創設者が、なぜ「道」と付けたか。それを、日常生活や、人生に生かすためです。

柔道を通して、丈夫な体や、逞しい精神を身に付けることができる。それを日常生活に、生かしていくことができる事なので、道場で立派な挨拶ができるのも、家に帰つて両親の前で挨拶ができるなかつたり、学校で挨拶ができるなかつたりしたら、価値は半減です。丈夫な体をしているにもかかわらず、車やバスの座席に座つたままで、お年寄りが来ても立つことができないのなら、日常生活に柔道が全く生きていません。です。いじめられている子供を見たら、「止めろよ」、「こっちへおいでよ、○○くん」と言うことができるかどうか。柔道を通して、勇気も身に付けているはずなのですからね。

人生山あり谷あります。いいこともあれば、悪いこともある。ラッキーもあれば、アンラッキーもある。挫折も、失意もある。しかし、投げられても、立上がって、ケガしても、試合で負けても、立ち上がつて、

投げられても、投げられても、立ち上がつて、ケガしても、試合で負けても、立ち上がつて、前を向いていったからこそ、柔道の勝利がある。

それを人生に生かしていくことが、

反省を生かして、前を向いていったからこそ、柔道の勝利がある。それを人間に生かしていくことが、「道」なのです。

オリンピックで優勝して、世界チャンピオンになることも尊いけれど、もつと尊いのはその道のりです。それを人生で生ききれないよね。柔道では、相手のことを考える、相手の心を読む、手のことは、そこなのです。当時は、「道」と付くものはなかつたと言います。

「剣道」も、「剣術」でした。創始者嘉納治五郎師範が、「柔道」と名づけて、そこに意味をつけたのです。ただ単に、



技術、体力を磨くだけではない。そこで学んだものを人生で生かすのだ、生きるのだ、とね。柔道では、「柔よく剛を制す」と言います。小さな力で大きな力を制す。相手の力を利用する。そういうことは、全部人生で生かすべきことなのです。

これは、柔道独自の考え方とも言えるけれど、日本的な考え方とも言えるのではないかと思います。「戦う人は、敵ではない」「相手に対する敬意、尊敬」「そこで学んだことを、人生で生かす」——。だから、チャンピオンになつただけでは半人前なのです。私が本当の柔道家かどうかは、これから問われているのです。柔道で頂点に立つたことを、人生で生かしていくかどうか、です。

それをお互いに出し合つて、傷つけ合つている状態です。

しかし、スポーツをして汗をかくと、気分が爽やかになります。これは、人間の本能なのではないかと思うのです。そして、多くの場合、仲間ができます。そうすると、同じものを共感できるのです。結果的に、体を動かすことそのものが、精神的な健康に役立ち、それとともに、体を動かしながら、同じものを通じてコミュニケーションができるのです。

私は、勝ち負けを否定しません。勝ち負けの世界で生きてきた人間ですか。ただ、ずっと周りの人の夢を打ち碎いてきたから、そろそろ、私自身は、勝ち負けの世界からちょっとと一步引こうかなと思っています。

チャンピオンになつただけでは半人前。  
私が本当の柔道家であるかどうかは、これから問われるのです。

自分の可能性に挑戦して、自分の夢にチャレンジしていく。そして、限界に挑戦する。失敗しても失敗してもきらめないで、夢を持って、前を向いて——このような経験をスポーツを通じてすることには、大きな価値があると思います。経験を通して、人間を磨いていく、先ほどの道の話ですね。それに繋がつていかなかつたら、本当の価値はないのではないかというのが一つの可能性と素晴らしいですね。

また、近年は、日本でも、躁鬱病の方や、精神障害の方などが、増えてきているとのことです。大人の自殺や、子供の不登校、いじめ・自殺なども増えています。日本人は、体のほうも不健康なのですが、精神的には、もっと不健康なのです。ストレスが溜まって、それをお互いに出し合つて、傷つけ合つている状態です。

お金のかけると、3・2ドルの医療費削減の効果があると報告されています。食べ過ぎ、飲み過ぎ、喫煙、運動不足が一番体に悪い。そういう意味では、健康のためにも、スポーツはいいのです。体の健康だけでなく、心の健康にもね。それは、何も若者だけのものではない。中高年には、時間がないけれど、健康が一番必要です。

また、お年寄りにも、できるスポーツをやってもらったり観戦してもらったり。身体障害者や、知的障害者にも、もっともっと門戸を開いていくといい



われわれの大きな役割は、次の世代に何を残していくことができるかです。現在、地球温暖化は大きな問題となっています。環境、資源の問題も本当に深刻です。このような問題に関しても、われわれスポーツ関係者は、何らかの行動をしようと考えています。

「世界一安心で、住みやすい街づくりに貢献している」という気持ちで

している人々にメッセージをお願いします。

ここ4、5年は、年間120日ほど海外に足を運んでいます。そして、思うことの一つは、やはり日本は、一番治安が安定していて、安心して暮らすことのできる国だなあ、ということです。

世界の国を回ってきて、日本は恵まれていると感じることが、3つあります。1つ目は、治安が非常にいいということ。そして、2つ目が、日本には本当の金持ちも、本当の貧乏もない

ということです。日本よりもずっと貧しい国でも、日本にはいないような大金持ちはいるし、アメリカやヨーロッパなどの先進国でも、信じられないような貧乏がありますからね。そして、3つ目が、水に恵まれているということです。どこに行っても水道の水が飲めるというは限られた国だけです。この3つが、世界を回ってみて、日本が素晴らしいと思うところですね。

そして、1つの治安に関しては、全国の警察の方々が、体を張りながら守ってくれているからこそ実現している



警察の道場で育った子供たちが、今、日本代表として活躍しています。そのことを知つてほしいと思います。

現在、世界で活躍している日本の柔道の選手たちは多くは、警察の道場で柔道を始めました。谷亮子選手も、中村三兄弟もそうです。井上康生選手は、お父さんが警察官で柔道家です。このように、全国の警察官が青少年育成のために指導している活動が、日本の柔道界、剣道界を支えています。

山下泰裕（やました やすひろ）

昭和32年熊本県生まれ。東海大学大学院体育学研究科修了。全日本柔道選手権9連覇、ロサンゼルスオリンピック柔道無差別級金メダルほか、タイトルを多数獲得。60年203連勝のうちに現役を引退。東海大学柔道部監督、アトランタオリンピック日本代表監督、シドニーオリンピック日本代表監督を経て、現職。国際柔道連盟教育コーチング理事。財団法人全日本柔道連盟理事。アマチュアスポーツで初の国民栄誉賞受賞。紫綬褒章受章

**特定非営利活動法人  
柔道教育ソリダリティー 平和柔道**

柔道教育ソリダリティーとは、柔道の国際的な普及に寄与するとともに、その活動を通じて人との交流を図り、異文化理解を深め、もって日本のさらには世界の青少年教育に寄与することを目的とした組織です。

◆問合せ先  
特定非営利活動法人  
柔道教育ソリダリティー事務局  
Tel 0463-58-1211 (内線3524) Fax 0463-50-2230  
eメール judo3524@keyaki.cc.u-tokai.ac.jp  
ホームページ <http://npo-jks.jp>

私も、小学校3年生の時に、街の警察の道場で剣道を始めました。剣道を辞めて、その後、柔道を始めたのです。私が柔道を始めたのは、警察を退官されて、その後、柔道場を開かれた先生のところでした。武道を通じた青少年の健全育成という面において、警察官の果たす役割は非常に大きいと思います。そして、そこで育った子供たちが、今、日本代表として活躍している。是非、そのことを知つてほしいと思います。

（撮影）杉田容子